

第 11 回 JaCVAM 運営会議議事録

日時：平成 21 年 2 月 17 日（火）15：00-17：00

場所：国立衛研 第一会議室

出席者：井上 達委員長、増田光輝、小島肇（以上、国立衛研）、
秋田正治（日本動物実験代替法学会代表） 以上順不同、敬称略

議題：

井上委員長の司会の下、議事を進めた。資料 1 に示す先回議事録について意見が求められたが、特段の意見はなかった。

1. 新顧問、評価委員、運営委員への委託について

資料 2 を用いて、新顧問として、皮膚科医である戸倉新樹先生（産業医科大）、実験動物の専門家である久原孝俊先生（順天堂大）が就任されたこと、経済産業省より森田弘一（化学物質安全室長）がオブザーバーとして協力頂けることになったと小島委員より紹介があった。評価会議の新メンバーとしては、皮膚科医である横関博雄先生（東京医科歯科大）、国立衛研支援グループから吉田緑先生（国立衛研）および濱本博幸先生（医薬品医療機器総合機構）に承諾を頂いている。運営委員の新メンバーとして、日本動物実験代替法学会の代表として秋田正治先生（鎌倉女子大）に承諾を頂いたと報告された。

2. 次回、顧問、評価会議、JaCVAM 第 2 回ワークショップの開催について

資料 3 を用いて、今後の予定について小島委員より紹介があった。次回の顧問会議は 3 月 5 日午後、評価会議は 4 月 13 日午後、JaCVAM 第 2 回ワークショップ（資料 5）は 4 月 17 日午後と説明された。

3. 評価会議議題

資料 4 の全体概要をもとに小島委員より説明された。

1) 皮膚刺激性試験

先回の評価会議において、EPISKIN の MTT アッセイのみの評価および他の培養モデルの評価についての依頼が、岡本裕子 皮膚刺激性評価委員長になされたことから、次の検討はそれらを待ってからとなる。

2) 眼刺激性試験

牛摘出角膜試験および鶏摘出眼球試験の評価報告書が 3 月中旬には届く予定である。次回はこの検討をお願いしたい。

3) 皮膚感作性試験

LLNA-BrdU の評価報告書が 2 月末に届く予定である。次回はこの検討もお願いしたい。

4. 評価委員会

引き続き、資料 4 の全体概要をもとに小島委員より説明された。

1) 進捗報告 光毒性およびパイロジェン試験

いずれも報告書の作成段階である。夏までには評価終了を予定している。

2) 新しい評価開始について 眼刺激性試験（細胞毒性）、急性毒性試験（細胞毒性）、皮膚感作性試験（rLLNA）

いずれも 4 月以降に評価を開始したいとされた。まだ評価委員は決まっていないが、これまでの委員を中心に委員を追加したい。急性毒性試験代替法の評価については、その進め方について意見交換した。井上委員長より、昔、菅野班で 6 年間急性毒性について検討した経験があると説明があり、その班員および関係者の意見や欧米の進捗状況を整理しながら、本邦での対応を整理する必要があるとの指摘を受けた。

3) JaCVAM 評価委員会の今後について

井上委員長より、西島所長および大野副所長を通じて、日本学術会議で JaCVAM について説明する機会が得られるよう依頼すべきであり、必要ならば、西島先生にご進講すべきであるとの助言を得た。ガイドライン作りには、産業界を含めた科学会全体が責任をもって支援すべきであることをアカデミアに理解させるべきである。全国の学長、工業会に peer review の協力依頼を送り、広報に努めることが重要である。基礎研究者の peer review への協力は米国では一般的であり、日本でもその普及が望ましい。

国立衛研の研究者は学生への教育義務もなく、各自のレベルアップのためにも peer review への協力は積極的にすべきである。奉仕の精神を普及させるべきであるとの提言を得た。

5. 国際動向

引き続き、以下の資料をもとに小島委員より説明された。

1) ECVAM 動向

資料 11 に示すように、2009 年 3 月 11 日の化粧品指令施行前の 3 月 9-10 日に ESAC 会議が開催される。小島委員が参加する予定である。資料 12 に示すような、具体的な試験法の動向についての意見交換がなされると予想される。

2) ICCVAM 動向

NICEATM が中心となって、ICATM の次回会議を SOT (2009 年 3 月、ボルチモア) 時に開催すべく準備している。

3) ICATM 動向

資料 13 に示すような memorandum が近々合意される。厚生労働省の記載が間違っていると井上委員長より指摘があった。

4) OECD 動向

資料 9 に示すようなナショナルコーディネーター会議が 3 月 31 日～4 月 2 日にパリで開催される。小島委員が参加する予定である。資料 7 および 8 に示すような非 RI による LLNA および培養表皮モデルによる皮膚刺激性試験について申請を実施しており、資料 10 に示すように OECD の申請一覧にも記載されている。OECD]における公式な検討対象となるよう努力する。

5) KOCVAM への援助

資料 15 に示すような 2009 年冬のシンポジウムがソウルで開催される。小島委員が発表し、参加する予定である。この場で、KOCVAM との協力関係について議論される予定である。井上委員長より、会議のための予算確保が難しく、また韓国は人事異動が多い。定期協議を継続することは困難を伴うが、韓国の発展のためには是非協力すべきであるとの見解を得た。

6) 7th World Congress

資料 14 に示すプログラム案では日本人発表者が少ない。日本動物実験代替法学会や個人的な窓口を通して、一人でも多くの発表者ができるように努めていく。

6. その他

1) JaCVAM の予算

来年度をもって、JaCVAM の予算が切れる件について小島委員より説明があり、今後の対応について意見を求めた。継続申請を厚生労働省、国立衛研に提出すべきであるが、今後は経済産業省 JaCVAM の必要性を含めて検討すべきである。国立組織であるがゆえに寄付を得られない現状の中、適切なスキームはないとの意見が示された。

2) JaCVAM ホームページ

資料 16 に示すように、ホームページのテスト版を確認してほしいと小島委員より依頼がなされた。今後の予定について井上委員長より質問を受け、3 月からはすべての JaCVAM 協力者から意見を集めると説明がなされた。

以上

配布資料一覧

- 1) 第 10 回 JaCVAM 運営委員会議事録
- 2) JaCVAM 関係者リスト
- 3) 2007-2009 年 JaCVAM の活動と今後の予定
- 4) JaCVAM の関与する試験法開発の進捗状況
- 5) JaCVAM 第 2 回ワークショップ
- 6) 新規試験法評価室が動物実験代替法公定化のために主催および協力している国内外のバリデーショ
ンまたは第三者評価委員会 (予算先)
- 7) OECD TEST GUIDELINES PROGRAMME、Standard Project Submission Form
Non-Radioisotope version of the Local Lymph Node Assay (LLNA)
- 8) OECD TEST GUIDELINES PROGRAMME、Standard Project Submission Form *In vitro* human
epidermal model to assess skin irritation: LabCyte EPI-MODEL24
- 9) Draft Agenda WNT 21 ,31 March-2 April 2009, starting at 9 a.m. on 31 March and ending at 6
p.m. on 2 April Room CC13

- 10) SPSF and Supporting Information
- 11) Dear ESAC members, dear colleagues
- 12) Dear ICCR Colleagues
- 13) DRAFT MEMORANDUM OF COOPERATION
- 14) WC7 – Calling on Science – update of January 23, 2009
- 15) 2009 Winter Conference of Korean Society of Alternatives to Animal Experiments
- 16) JaCVAM の仮ホームページ